

# いのちのたび



## 入学・進級おめでとうございます♪

今年度も  
新年度がスタートしましたね。みなさんも新鮮な気持ちで、学校生活を送っていると思います。今年度も  
みなさんに楽しんでご来館いただけるように、情報誌「いのちのたび」を発行し、博物館からの情報をお届け  
します。どうぞよろしくお願ひ致します。

## 博物館での学習

いのちのたび博物館では各学年毎に学習ができます。

### 【小学校3年】 社会科「かわる 道具とくらし」(教材費無料、35名あたり大豆200g持参)

昔の道具とくらしについて、博物館の資料や展示を用いて、調べたり聞いたりすることができます。また歴史課の学芸員の先生より、直接お話を聞くことができるため、より深く学べます。

この道具、何だろう？



※現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、受け入れ人数に制限を設けています。  
授業内容の詳細は、この情報誌とともにご案内をお送りしていますので、必ずご確認ください。

### 【小学校4年】 総合「SDGs環境アクティブ・ラーニング」

いのちのたび博物館では、北九州全体の動植物の生態系と環境についての学習とペットボトル顕微鏡づくりを行います。

詳細は、教育委員会より別途通知がありますので、ご覧ください。



ペットボトル顕微鏡で、こんなによく見えるんだ!

### 【小学校6年】 理科「土地のつくりと変化」

実験・観察をするのがなかなか難しい単元ですが、博物館の実験器具や資料を用いて、実感を持った学習を展開することができます。特に、岩石や化石に触れることによって学習意欲を喚起し、理解を深めるのに大変有効です。

授業の申し込み方法について、この情報誌とともにご案内をお送りしていますので、ご覧ください。



ティラノサウルスの歯(レプリカ・左端)こんなに大きいんだね!スピノサウルスやモササウルスの歯は本物だよ!すごいね。



# ミュージアムのタネ



こんにちは!僕、情報誌の新しいキャラクター「ドン・グリオ」。どうぞよろしくね♪  
さて、今年度より、みんなにとって身近な内容で、興味を持ってもらえそうな話を紹介していくね。  
4月号は「小学校2年生」と「中学校1年生」の国語に出てくる内容だよ。  
みんなに楽しんで読んでもらえるといいなあ!

## タンポポもダイコンも食べられる

今年もタンポポ類の花をよく目にする季節になりました。国内には、もともと日本にはえている在来種に加え、ヨーロッパなどが原産のセイヨウタンポポとよばれる外来種も生育しています。実は、私たちが街中で見かけるタンポポは、後者である場合がほとんどです。在来のタンポポ類は春しか花を咲かせませんが、セイヨウタンポポは春以外でも開花します。このセイヨウタンポポは、明治時代の終わりごろ、北海道で暮らしていたアメリカ人が、食用にするためアメリカ合衆国から持ち込んだといわれています。その当時、セイヨウタンポポは、すでにヨーロッパからアメリカに入り込んでいたのでしょう。私たちはタンポポ類の葉を食べることはほとんどありませんが、ヨーロッパなどではサラダとして利用しているそうです。同様に食材として用いられている外来の植物は数多くあり、いろいろな部分が食されてきました。

弥生時代には日本に伝わっていたと考えられているダイコンは、長年にわたり改良され、現在は様々な種類(品種)が存在しています。葉も食用となるダイコンですが、日頃、私たちが食べている部分は、植物学的には根と胚軸とよばれる器官です。おおざっぱに言えば、ダイコンの白い部分の大半が根、葉をつけている部分が茎、根と茎との間にある部分が胚軸です。根と胚軸との境はとてもわかりにくいのですが、根には細根とよばれる細い根がついています。また、茎や胚軸は日光があたると緑色になりますが、根は緑色にはなりません。(中学生のみなさんへ:茎と根と胚軸では、維管束のつくりがそれぞれ異なっています。)ちなみにカブはダイコンに似ていますが、主に胚軸の部分を利用しています。また、サツマイモは根を、ジャガイモは茎を、タマネギやネギは葉を、プリッコリーやカリフラワーは花(蕾)を食用にしています。

今回は、野菜の食用部分の正体をご紹介しましたが、いわゆるフルーツにも、私たちが思っているのとは違う部分を食用にしているものもあります。みなさんも調べてみてください。



自然史課学芸員 真鍋 徹